

保護者の皆様

北斗市立上磯小学校長 後 木 明 生

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果と取組について

令和5年4月18日（火）に実施しました6年生の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。今年度は、国語・算数の2教科で調査が実施されました。今回の結果を基に、本校の児童が十分に理解しているところや課題になっているところを把握し、授業改善や生活指導に生かしたいと考えております。御家庭におかれましては、お子さんの学習・生活習慣の見直しや在り方について、親子で話し合う機会を設けていただきますようお願い申し上げます。

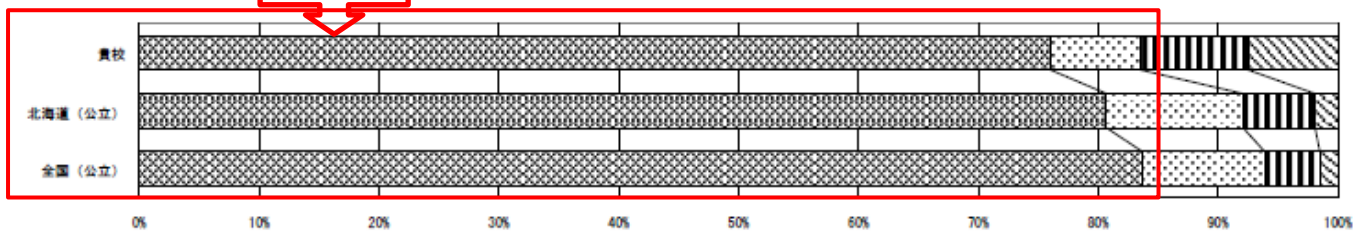
### 【令和5年度全国学力・学習状況調査結果～平均正答率～】

教科	国語		算数	
	平均正答率 (%)	全国差 (%)	平均正答率 (%)	全国差 (%)
上磯小学校	67.0	-0.2	65.0	2.5
北海道	66.0	-1.2	61.0	-1.5
全国	67.2	0.0	62.5	0.0

### 【児童質問紙の分析】

本校児童は、自己肯定感が高く、困りごとがある時、先生や学校にいる大人に相談できる傾向が高い事も分かりました。しかし、朝食の摂取率が低く、新聞を読んだり、読書をしたりする時間、家庭学習時間も少ないことから、家庭と連携した生活習慣の改善や図書館・地域社会と協働した取組、ICT機器を有効活用するなどしながら、家庭学習時間の確保を促す必要があると考えます。

質問番号	質問事項										
	朝食を毎日食べていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	76.1	7.5	9.0	7.5						0.0	0.0
北海道（公立）	80.7	11.4	6.0	1.9						0.0	0.0
全国（公立）	83.7	10.2	4.6	1.5						0.0	0.0



### 御家庭へのお願い（引き続き取り組んでほしいこと）

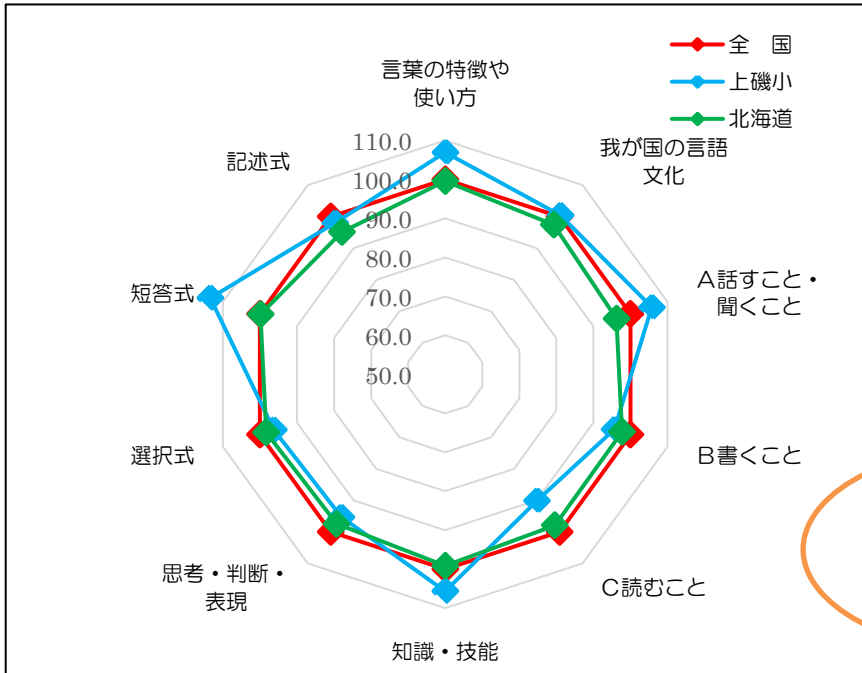
- 語彙力や表現力の基礎となる「読書」時間を大切にしてください。
- 家庭学習（主体的な学び）を大切にしてください。
- 正しい学習習慣・生活習慣作りに御協力ください。

### 学校では（改善に向けた取組）

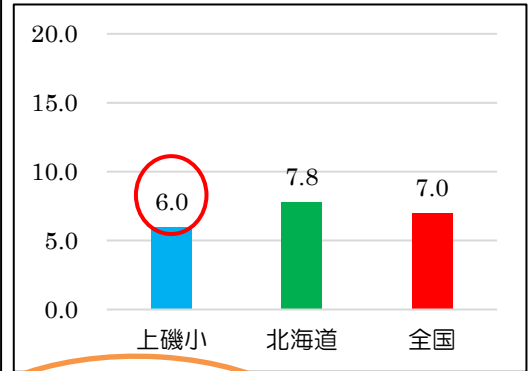
- 主体的・対話的で深い学びを実践し、日常の授業改善を進めます。
- 全校一斉での日記の取組や条件付き作文指導に改善を加え、継続実施していきます。
- 放課後学習（チャレ15）や長期休業中のサポート学習の実施・改善に努めます。
- 学習用具のきまりや学習のスタンダードの統一・徹底を図ります。（HP内「知っとこ☆上小」参照）
- 読書環境の整備を図ります。
- 1人1台端末の持ち帰りや有効活用の充実を図ります。



※全国平均を 100 として換算



【国語：正答数の少ない児童の割合】  
\* 14 問中 4 問(約 30%)以下



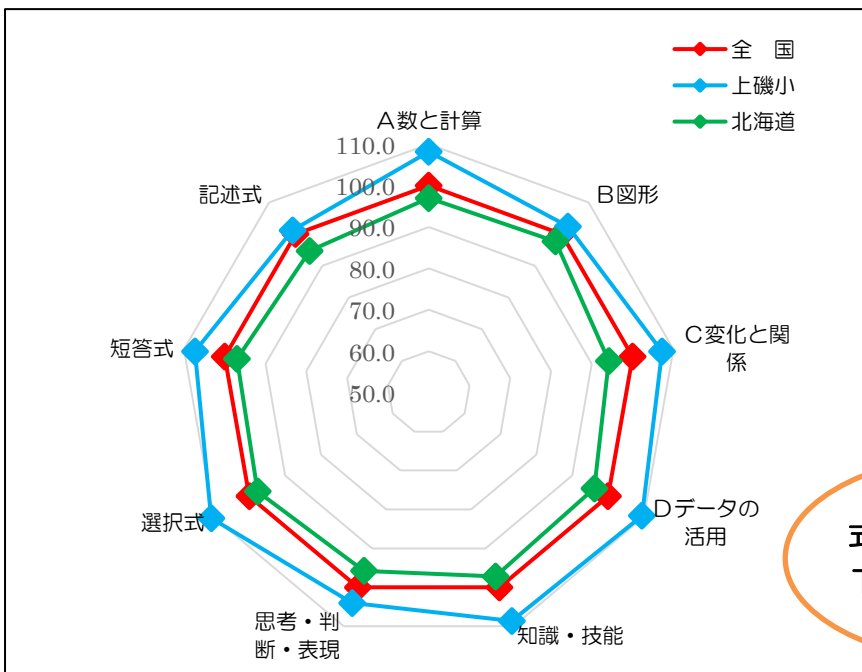
自分の考えを  
話してみよう！  
書いてみよう！



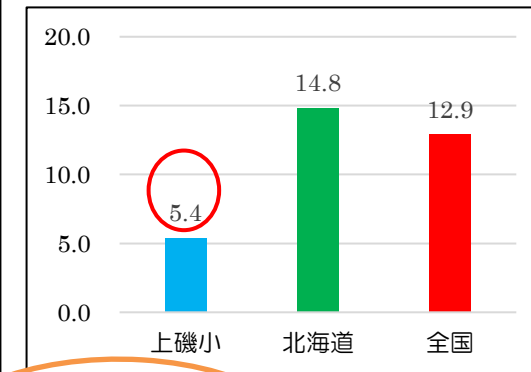
【分析】

国語が将来役に立つことや大切であることを理解し、問題を最後まで解答しようと努力することができます。「漢字の送り仮名に注意して、文章の中で正しく使うことができる」かどうかを問う問題の正答率が 100% に近く、全道・全国以上の結果となりました。「文章の種類とその特徴について理解している」「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」かどうかを問う問題の正答率は、全道・全国以上の結果となりましたが、9 割を超えることはできませんでした。

また、「図やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」「日常よく使われる敬語を理解している」かどうかを問う問題の正答率は、全道・全国に比べて低い結果となったことから、文や会話からの情報を正しく理解し、伝えたいことを的確に表現する力を高める学習や、日常から言葉の使い方に気をつけ、正しく敬語を使う場面を取り入れた学習を展開する必要があることがわかりました。



【算数：正答数の少ない児童の割合】  
\* 16 問中 5 問(30%)以下



式の説明にも  
TRY! TRY!



【分析】

算数では、「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる」かどうかを問う問題の正答率が 100% に近く、全道・全国以上の結果となりました。「比例の関係を理解している」かどうかを問う問題の正答率も 9 割を超えており、全道・全国以上の結果となりました。上記棒グラフにあるように、正答数の少ない児童の割合も低く、日頃の児童のがんばりの成果が感じられる結果となりましたが、「日常場面で小数の計算を式や言葉を用いて説明できる」かどうかを問う問題については、全道・全国に比べて低い結果となりました。

これからは、算数で学んだ事を日常生活に生かしたり、立式の根拠や方法を自分の言葉で説明したりする学習場面を展開する必要があることがわかりました。